

第26回 同窓祭公開講座 2019年9月23日(月・秋分の日)

講師 麻生 えりか 氏 (英米文学科教授)

## カズオ・イシグロの『日の名残り』を読む

2017年ノーベル文学賞受賞者の小説を読む本公開講座は179名もの参加者で会場が溢れました。先生が「日の名残り」を映画で観た人、日本語で読んだ人、英語で読んだ人を尋ねると大勢がそのいずれかに挙手、当該作品の人気の高さを反映する盛況ぶりでした。

「日の名残り」はイギリスの名家ダーリントン家に長く仕えた謹厳実直な執事ステューブンスが1956年夏、新雇用主のアメリカ人から休暇を勧められ、元同僚を訪ねて復職を促す目的を兼ね、雇用主の自動車でイングランドを旅する話です。

先生はご用意くださった配布資料に従って、以下の順で話を進められました。

### 1. カズオ・イシグロと『日の名残り』

イシグロ作品には英雄も略奪者も犠牲者もない。「日の名残り」には過去の失われたチャンスへの想いはあるが、全体的に悲劇を越えた救いがある。

### 2. 信頼できない語り手

イシグロ作品では主人公が語り手であるが、その話は時として揺れる。ステューブンスはダーリントン卿を偉大な名士と誇り、卿に仕えた自分を誇るが、旅しながら過去を振り返ると、そこに直視してこなかった事実があることに気づき、気持が揺らぐ。事実とは1930年代に卿がとった対ドイツ宥和政策の失敗と卿の失墜である。

### 3. イングリッシュネスの再発見

イングランドの田園風景に感動し、偉大なるブリテンを再発見する主人公。湿地帯や海辺の町も巡り、人々が親しく語り合う様や温かさに驚くが、それは逆に同じ労働者階級でありながら孤立する彼の姿を浮き立たせる。

### 4. 冷戦と『日の名残り』

主人公が回想する1930年代は対ドイツ宥和政策での失敗が後の世界大戦に繋がり、小説の



舞台の1956年はスエズ戦争が勃発、イギリスの威信が失墜してアメリカの覇権が確立する。小説が上梓された1989年は米ソ冷戦が終焉、新自由主義の台頭という時代背景があった。この作品には歴史的なアイロニーや、民主主義と階級社会といった問題が重層的に織り込まれている。

この作品の奥深さと小説を読み解く知的作業の面白さを改めて教えて頂いた講演でした。麻生先生に深く感謝申し上げます。

(渋谷由美子 '72年卒)

第40回講演会 2019年10月5日(土)

講師 花田 恵吉 氏 (アナウンス・アドバイザー・元NHKチーフアナウンサー '84年英米文学科卒)

## 英語アナウンサーという仕事を通して見えてきたこと

中学生時代、深夜放送に夢中になり、カセットテープに録音しては自前でDJ番組をつくり、友人と交換した。次に友人とFM局をつくり、番組表まで作っていた。同時に英語にも夢中になり英語講座を聴き始めた。高校では吹奏楽の練習に明け暮れたが、3年になって受験勉強に一生懸命になった。その頃、将来は英語を使って放送することを職業にしたいと願うようになった。

青学英米文学科に入学し、通訳の授業を1年間、さらに放送ジャーナリズムの講義を受け、元アナウンサーの指導のもと番組制作をした。ESSに入り英検1級をとり、まさに夢に向け準備万端整えてNHKを受け

たところ、あえなく不採用。故郷島根に戻り英語教師をしていたが夢は棄てきれず、再び東京の夜間高校で教えながら、当時、東京で開講したコロンビア大学大学院に入学、英語が母語でない人向けの英語教育法(TESOL)の修士号をとった。その頃、NHKがキャリア採用を始めることを知り受験、今度は採用され、30歳にして夢を実現することができた。

英語アナウンサーは職員5名、他にフリーのアナウンサーとスタッフがいる。当初はラジオ・ジャパンでニュースなどを担当し、1995年にNHKワールドTVが始まってからはニュースのキャスターに。広島・長崎の平和記念式典など様々な番組に加え、園遊

会、フィギュアスケートの会場アナウンスもした。

年齢を重ねると教育係としての役割が加わり、地方局や在外の記者・ディレクターなどが取材・構成した記事を報道する前に発音の指導を行った。ナレーションでは声の高さ、間のとり方が大切。発音では、破裂音の単語を発声するときの息の量にも注意が必要である。単語の中の強い音節、弱い音節、文の中での意味上の強弱関係を見極め、強い単語は強く長く少し高く、弱い単語は弱く短く少し低く発音することで英語としてのリズムが生まれてくる。rとl、それにthの発音は、適切なヒントをあげるとわずかな時間で正しくできるようになる。

音源や映像をふんだんに用意して下さり、ときに私たちにも英語の文を英語らしく言ってみましょうと指導を下さったりして、楽しい講演だった。

(林 千根 '65年卒)

